

磐城時報

日刊 八廿夕
編輯部 磐城石城郡平野町新屋町十四
印刷部 磐城石城郡平野町新屋町十四
電話 磐城石城郡平野町新屋町十四
發行所 磐城石城郡平野町新屋町十四
電話 磐城石城郡平野町新屋町十四
廣告料 一行十四字 一月五元 三月十元 半年二十元 一年四十元
印刷部 一行十四字 一月五元 三月十元 半年二十元 一年四十元
電話 磐城石城郡平野町新屋町十四

磐城町田坑内焼け 百四十名即死

死体七十九名は発見 本邦炭礦界空前の大悲惨事

内郷村磐城炭礦町田坑に二十七日午後一時頃火災起り折柄入坑作業中であつた従業者百五十名名の生死が全く不明となつた事件あり直ちに平野に急報すると其に會社では決死隊を組織し従業者救助に着手したが坑下、廣畑並に北坑斜坑口附近に居合せた十数名が幸ふじて逃れ出たのみで遂に百四十名は焼死若しくは窒息して惨死し會社では死体の始末、その家族の扶助、引もつて見舞客の應接等の上を下の大混雑を呈し附近は家族の死に泣く者、安否を氣づかふ近親者等で實に阿鼻叫喚の巷と化してゐる……

豎坑から火を吐き 全坑焼跡と化する

僅か數名が廣畑人道から逃る 惨死者百七十九名の氏名

二十七日午後一時十五分町田坑捲上げ人車で坑口下(豎坑の直下)棟取部屋の番人廣畑直三(三八)が坑外に出で事務所へ飛び込んで「坑内が火事だ」と告げたので大騒ぎとなり直ちに人車で十數名を下げたが時既におそく坑内は火焔燦々何等施す術がなく其儘坑外に出で善後策を計つた結果火焔の擴大を防ぐため町田全坑の排氣口である北斜坑の煽風機運轉を停止した(午後二時)茲に於て町田全坑は全坑内より煙の煙突の如きものでない濃々たる火焔は一時に豎坑に集中され黒煙は天を突いて吐き出され初め遂に豎坑の壁燒き(このまゝ)

救助のため 入坑して惨死

町田坑内火災について椿事勃發後坑内から従業者を救ふべく危険を冒して入坑した勇敢なる決死隊の中、死亡したる者左の如し。

- ▲職、員
- 機械工 伊太郎(五五) 技工 高野鶴治(五〇) 矢島一郎(四二)
- 大竹政雄(三三)
- ▲坑、夫
- 櫻村千代吉(三八) 小松政雄(四〇)

に放つて置けば壁は落盤し坑口遂に閉塞する状況に立ち至つたので午後四時再び北坑の煽風機運轉を開始し町田斜坑(約二間四方の上部を厚さ三尺のコンクリートで密封した)の間坑内作業中の従業者百五十名中北坑斜坑口並に廣畑斜坑口に近い個所で作業してゐた

現場員比佐武(三二) 長谷川喜太郎(三三) 鈴木彌平(二八) 外二名が僅かに命からかく這ひ逃げたのみで居残つた百二十七名全部は遂に惨死したものである

椿事勃發を知つた町田坑附近坑夫長屋の驚きは殆んど言語に絶し忽ち家族、近親者等約三百名が廣畑の人道から夫々死体搜索のため續々入坑し一方會社で組織した搜索隊も協力一致して死体搜索の結果二十七日午後十時頃まで七十三名の惨死体を坑内に持ち運んだがその他は目の届く箇所に在る死体も猛烈な炭酸瓦斯發生の爲近よる能はず今の處全く手の出じやうない有様である。

- 村伊藤清明(二二) 岩瀬郡大屋村石原ハツエ(一六) ▲支柱
- 夫一安達郡山本村鳴原良太郎(四〇) 山形縣野妻村栗野作太郎(三三) 石川郡端川村小沼橋清(二九) 石城縣箕輪村小沼朝正(三八) 宮城縣田村真壁長助(四八) 河沼郡新館村榎木喜一(五四) 安達郡北戸澤村梅原清(三六) 信夫郡六箇生村田口新(三四) 栃木縣金子町高松善一郎(二五) 茨城縣淺石村加藤幸之助(四九) 宮城縣石森村本間長三郎(三九) 安積郡片平村星常太郎(三八) 安積郡山木屋遠藤新四郎(二八) 山形縣成生村伊藤徳右衛門(四七) ▲
- 木工一安積郡豊田町菅野野市(四二) ▲支柱夫一山形縣成生村伊藤留吉(二九) 新潟縣笹岡村一ノ瀬勘治(二五) 岩手縣山目村鈴木幸治(三一) ▲難
- 兵庫縣野野村福本彌實(五〇) 岩瀬郡大屋村石原梅藏(四六) 耶麻郡喜多方町一ノ瀬與吉事見要吉(五二) ▲運搬
- 夫一茨城縣國田村高安保(二五) 宮城縣田町高橋訓之助(三〇) 田村郡二瀬村中村爲吉(四一) 宮城縣蓋笠町菅原定次郎(四二) 山形縣東川村菅原儀八(三三) 石城縣箕輪村長瀬一三(三三) ▲工作夫一田村
- 郡御木澤村渡邊淺重(四三) 安積郡豊田村濱津勝美(三四) 岩手縣生母村千葉兵太夫(三八) 安達郡荒井村渡邊清道(二七) 山形縣東郷村深瀬善三郎(二二) 岩手縣岩谷村菊地友助(三二) 信夫郡中野村矢野傳次郎(四五) 宮城縣白石町鈴木章(一九) ▲職工一石城郡内郷
- 村菅野長一(二〇) 岐阜縣川崎村藤見隆神(四八) 宮城縣大内村阿部大海男(二八) 石城郡好間村野崎義隆(三八) 石城縣草野村新妻淺次(四七) 宮城縣西ヶ崎村佐藤盛治(二七) 山形縣大童町中川平吉(四二) ▲未発見者
- ▲探炭夫一新潟縣松浦村宮崎五太郎(四八) 山形縣山寺村佐藤善四郎(三四) 秋田縣栗川村佐藤達治(四八) 岩瀬郡稻田村根本徳太郎(五五) 岩瀬郡稻田村園谷七郎(二一) 大沼郡永井野原田新四郎(五三) 宮城縣北浦村伊藤健五郎(四六) 安達郡本宮町渡邊和久松(五八) ▲後山夫一岩瀬郡日方村善方ハルヨ(一七) 岐阜縣古川村北平ヨシミ(二〇) 山形縣東平四村淺井ヨネ(三〇) 栃木縣金子町高松サツエ(三四) 西白河郡滑津村吉田ハル(二四) 新潟縣完龍村小貫末松(一八) 石城縣永戸村岡本タ子(二八) 岩手縣薄衣村星ヨシノ(三〇) 栃木縣武茂村磯野タツ(四八) ▲支柱夫一田村郡
- 片曾根村通川保平(一六) 千葉縣原町木村作三(四六) 南會津郡榎東村佐藤徳平(二七) 宮城縣田町秋保勇次郎(三一) 宮城縣小山末吉(三五) 石川郡山根村添田幸次郎(五五) 栃木縣常盤村金子新六(三八) 石城郡錦村上遠野金之助(三七) 伊達郡小高村菅野外記(四八) 安達郡本宮町河原末藏(二七) 安積郡富田村大和田作次郎(四三) ▲支柱夫一伊達郡藤田町鈴木久治(二〇) ▲難夫一安積郡三和村水野彦次郎(四四) 石川郡澤田村小豆畑藤吾(二一) 北會津郡高野村渡邊吉松(六) 宮城縣中新田佐々木盛(五五) 北會津郡漆山村口友吉(三六) 安積郡平村渡邊新次郎(二四) ▲工作夫一安積郡三和村大山儀市(三二) 岩手縣前澤町門脇小太郎(三二) 宮城縣岩沼町菊地忠太郎(五一) 北合計百三十九名である。

- 會津郡神指村菅川常作(四〇) ▲職工一仙臺市高橋重雄(二八) 山形縣米澤市鈴木正男(一七) 千葉縣旭町山口忠雄(一八) 石川郡小高村吉田武(二七) 石城郡内郷村吉田泰吉(二四) 石城郡内郷村吉田西之助(一九) 山形縣鶴岡町松平喜八(二六) 信夫郡金谷川村齋藤定勝(二二) 石城縣十王村竹田與藏(四八) 山形縣十王村竹田與藏(四八) 石城縣磐崎村野木静市(四四) 石城縣磐崎村野木静市(四四) 秋田縣内町足田廣三(三六) 北會津郡淡川村丸山好文(三七) 北會津郡淡川村丸山好文(三七) 伊達郡本戸村木村長治(二二) 石城郡好間村大河原五郎(二二) 石城郡内郷村鈴木春吉(三四) 茨城縣潮町磯山勇治(三四) 伊達郡飯野村藤野藤八(三五) 耶麻郡岩月村高橋惣三郎(四二) 安積郡河内村高田重吉(三九) 安積郡蓋笠村松本林健次郎(四三) 石川郡川東村岡部榮一郎(四〇) 山形縣殿村佐藤榮一郎(四五) ▲工作夫石城縣小高村菅野外記(四八) 以上惨死者は
- 先山夫 十六名
- 後山夫 二十四名
- 支柱夫 二十九名
- 職工 二十九名
- 職員 二名
- 合計百三十三名

警察部長等來山 火災原因は不明

公休日でなかつたら消止め得た

町田坑内火災については二十七日官丁數名急行、二十八日には縣警察署から樺村署長以下係から救急警察一(以下省略)

